

**和良地域振興施設
基本構想
概要版**

2025年3月

郡上市

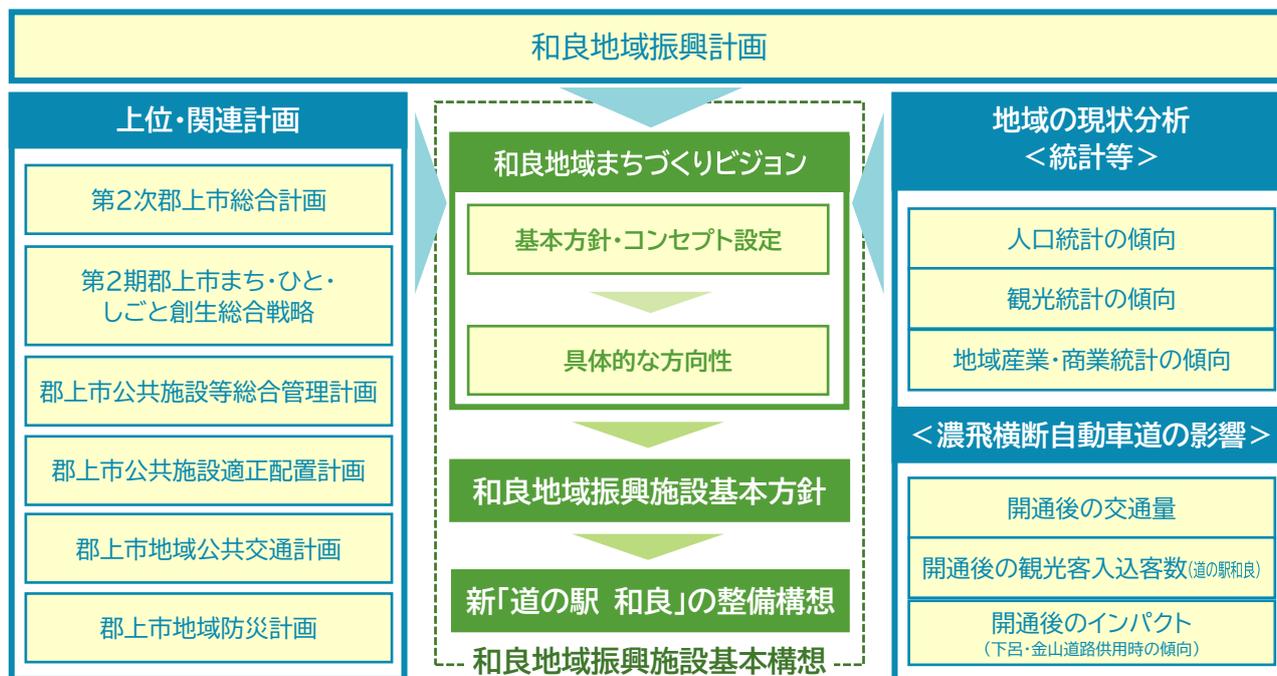
1. 検討の背景

背景と目的

- 和良町は、岐阜県郡上市の東部に位置する長い歴史と文化、豊かな自然に恵まれた地域ですが、多くの地方都市と同様、人口減少・高齢化に直面しており、地域の経済活性化と社会基盤の維持が喫緊の課題となっています。
- 和良町では、濃飛横断自動車道の整備という大きな出来事が間近に迫っています。これを絶好の機会と捉え、新たな時代の地域づくりに取り組む必要があります。
- 和良地域の活性化拠点となる和良地域振興施設について検討し、その方向性を示すことを目的に、和良地域振興施設基本構想を定めます。

本構想の位置づけ

- 本構想は、郡上市全体の上位・関連計画のほか、和良地域振興計画を踏まえた内容とし、3編で構成されます。
- 「第Ⅰ編 和良地域まちづくりビジョン」では、和良町全体を対象に、和良町の強みを生かしながら、より魅力的な地域社会の構築を目指すためのビジョンを定めます。
- 「第Ⅱ編 和良地域振興施設基本方針」では、第Ⅰ編で定めたビジョンと連携しながら、その実現を目指して、地域における拠点施設となる和良地域振興施設の役割やあり方などを定めます。
- 「第Ⅲ編 新『道の駅 和良』の整備構想」では、和良地域振興施設として整備する新「道の駅 和良」の具体的な機能や整備手法について記述します。



2. 地域の現状

人口

- 郡上市および和良町では人口減少、高齢化が進んでおり、今後も進行すると予想されています。令和2年（2020年）の人口は郡上市が38,997人、和良町が1,536人であり、高齢化率は郡上市が37.5%、和良町が48.6%となっています。
- 和良町は、郡上市の中でも特に高齢化が進行している地域であり、令和32年（2050年）には、高齢化率が60%を上回ることが推測されます。このことから、地域活力の低下を防ぐことが喫緊の課題と言えます。

観光

- 郡上市および和良町の観光入込客数は、令和元年までわずかに減少傾向にありました。新型コロナウイルス感染拡大の影響により、令和2年以降はさらに減少しましたが、現在は回復傾向にあります。
- 和良町の観光入込客数は、郡上市全体の約3%前後であり、和良町を観光目的地とする人が、市全体と比較して少ないことが分かります。ただし、令和3年以降の宿泊客数は、市全体では減少傾向であるのに対し、和良町では増加傾向にあり、近年のアウトドア需要の高まりから、和良町の豊かな自然を求める観光客が多くなってきていると考えられます。

産業・商業

- 郡上市の市内総生産は、「製造業」、「建設業」の割合が高くなっており、令和2年度には第2次産業が37%、第3次産業が60%を占める産業構造となっています。一方で、第1次産業は約3%であり、低調な傾向となっています。
- 郡上市の産業分類別事業者数において、和良町が占める割合は10%未満がほとんどです。事業者数の割合が比較的高い産業は「電気・ガス・熱供給・水道業」「農林漁業」で、反対に「宿泊業、飲食サービス業」の割合は少ない現状です。
- 和良町では、小売業事業所数については、国道256号付近に10前後の事業所があるのみで、従業者数とともに、郡上市全体の5%未満となっています。尚、令和6年度末にガソリンスタンドが閉店しましたが、更に地域住民の日常生活に必要なサービスが不足することが心配されます。

地域資源

- 和良町には、平成の名水100選に認定された和良川や、「清流めぐり利き鮎大会」で何度もグランプリを獲得した和良鮎、国の天然記念物であるオオサンショウウオなど、豊かな自然とそれらが育んだ資源が多く存在します。また、豊かな自然を活かしたタイプの異なるキャンプ場が2つあり、夏には多くの利用者が訪れます。
- 和良町には80件以上の文化財登録があります。また、毎年行われる戸隠神社の祭礼は400年前から続いており、現在もお大切に守り継がれています。



画像引用元：和良振興事務所

3. 濃飛横断自動車道

概要

- 濃飛横断自動車道は、東海北陸自動車道（郡上市）と中央自動車道（中津川市）に連絡することにより、県内の高速交通体系を補完する総延長約 80km の高規格道路です。
- 八幡～和良間の約 17km（一部供用）が調査区間となっており、令和 5 年度には堀越峠工区 L=5.9km と和良工区 L=4.0km が事業化し、調査等が進められています。

※郡上市和良町から下呂市金山町の 2.7 km を「和良金山道路」として平成 28 年 3 月 25 日に、下呂市金山町から同市保井戸までの 5.4 km を「金山下呂道路」として平成 24 年 7 月 24 日に供用開始。

- 現状の国道 256 号は、八幡～和良間にある堀越峠が通行の難所となっています。八幡～和良間の通行が容易となることにより、地域住民の生活圏拡大と、和良地域の孤立発生リスクの軽減などが期待されています。
- また、リニア中央新幹線岐阜県駅（仮称）が整備される中津川市から郡上市まで濃飛横断自動車道が繋がることによって、東西方向の広域的なアクセス軸が形成され、広域的な観光周遊ルートが構築されることも期待されています。
- 以上の効果は、濃飛横断自動車道の通過地点である和良町にももたらされると考えられ、和良町のまちづくりの契機となると考えることができます。



出典：岐阜県濃飛横断自動車道計画に関する説明会資料に基づき作成

濃飛横断自動車道開通の影響

- 濃飛横断自動車道（現在事業化されている区間）が開通された場合、郡上市全域の交通量は約 3% 増、和良町では約 20% と予測されます。また、交通量の伸び率から和良町の観光入込客数は、年間約 3.4 万人増加が見込まれます。
- 和良金山道路および金山下呂道路供用時、「道の駅和良」の入込客数の伸び率は 60% あり、道路の開通が入込客数に大きなインパクトを与えました。このことから、濃飛横断自動車道の全線開通により、和良町への観光客増加が期待できます。
- 濃飛横断自動車道の計画では、岐阜県駅（仮称）との接続が可能になっており、濃飛横断自動車道の開通が、リニア開通効果を東濃・中濃圏域にもたらすことが期待されています。

4. 和良地域まちづくりビジョン

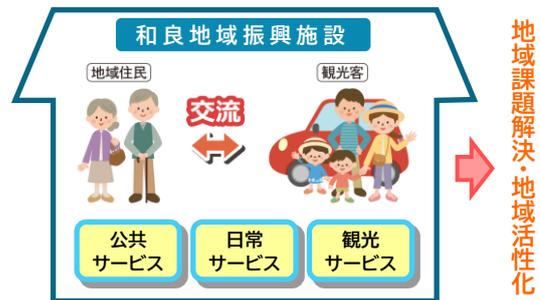
基本 理念

みんながつながり みんなでつくり みんなでまもる 清流の里 和良

コンセプト

濃飛横断自動車道開通を新機軸とした、和良町の地域課題解決と活性化
～地域住民と観光客を繋ぐ拠点の創出～

- 和良町の地域資源を活かし、地域住民と域外からの来訪者が交流しながら、和良の未来を地域の皆で創ることを目指します。
- 濃飛横断自動車道開通による効果を最大化し、和良町の地域課題の解決と地域活性化を図るための拠点を創出します。



具体的な方向性

1. 和良地域振興施設を拠点とした産業振興

濃飛横断自動車道の開通による人流や物流の変化に対応すべく、現在の道の駅機能の移転を含めた地域の産業振興の拠点として整備します。

2. 和良地域振興施設を拠点とした交流による地域の活性化

濃飛横断自動車道の開通により新たに生まれる交流を、人材の育成・確保につなげます。

3. 和良地域振興施設を拠点とした地域住民等の安全安心な暮らしの場づくり

濃飛横断自動車道の開通にあわせた防災機能の整備や、地域住民の生活サービスの確保など、安全安心な暮らし場づくりをすすめます。



5. 基本構想策定に向けた基本方針

地域活性化の方向性

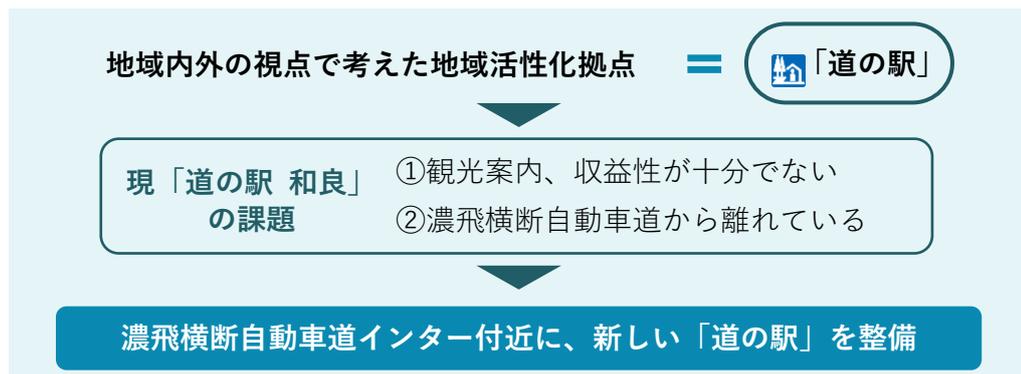
- 濃飛横断自動車道の開通により、郡上市の東側からの来訪者が多くなると予想され、和良町が「郡上市の東の玄関口」となります。『和良地域振興計画』においても、「道路網など社会基盤の変化への対応」が掲げられており、濃飛横断自動車道の開通を見据えた地域活性化の未来ビジョンの立案が重要です。
- 地域活性化は、地域外と地域内の、両方の視点から考えることが必要です。

地域外の視点	地域内の視点
<ul style="list-style-type: none">・濃飛横断自動車道開通により、和良地域に人を呼び込める可能性が高まる・新しい人の流れを確保するためには、来訪を促進する機能（ゲートウェイ機能）を持った拠点施設を整備するなど、立ち寄りの仕掛けづくりが必要・和良地域の場合、対象者は濃飛横断自動車道ユーザーであり、既に認知度の高い「道の駅」を拠点施設とするのが有効	<ul style="list-style-type: none">・和良地域では「小さな拠点とネットワーク」として、日常生活を支える機能の集約が求められている・生活サービス、地域コミュニティ等の日常生活の機能を集約し、拠点をつくることは、利便性向上の観点で効果的である

- 和良地域における、新しい域外からの人の流れの対象者は濃飛横断自動車道ユーザーであり、道路利用者の来訪を促進する機能が必要です。

和良地域振興施設のあり方

- 道路利用者のゲートウェイ施設の1つに「道の駅」が挙げられます。
- 現在「道の駅 和良」がありますが、濃飛横断自動車道からやや離れた位置にあり、道路利用者の利便性や立ち寄り促進の観点から、立地が良くありません。
- 現「道の駅 和良」は、開設から既に30年以上経過しており、施設や機能の更新を含めたりリニューアルが必要な時期に来ていると考えられます。
- 近年「道の駅」は、休憩・情報提供・地域連携の従来の3機能に限らず、地方創生や観光促進など、多様な機能を有することが多くなってきています。
- 上記の理由から、和良地域振興施設を、濃飛横断自動車道を契機とした和良地域活性化の拠点とするためには、濃飛横断自動車道のインター隣接箇所に新しい「道の駅」を整備することが、最も有効だと考えます。



6. 和良地域振興施設の役割

求められる役割

- 市民ワークショップ等での理想の和良地域振興施設に関する意見等や、濃飛横断自動車道の整備による社会情勢の変化と期待等を踏まえ、和良地域振興施設に求められる役割を3つに整理しました。
- 3つの役割は、「道の駅」に求められている役割と同じであり、和良地域振興施設を「道の駅」として整備することは妥当と考えられます。

【役割1】 郡上市・和良町の魅力を伝える玄関口

- ・濃飛横断自動車道利用者の休憩等立ち寄りに加え、郡上市や和良町の魅力を発信し、目的地として訪れたい施設。
- ・地域の団体や事業者等の連携を含め、和良町の産業振興拠点としての役割を担う施設。

【役割2】 地域の人とモノが集まり、繋がり、価値を産み出す結節点

- ・地域内外の人たちとの交流促進と、地域で活躍できる人材の確保・育成の機会が生まれる施設。
- ・自然や文化等地域資源を活用し、地域のにぎわいを創出する施設。

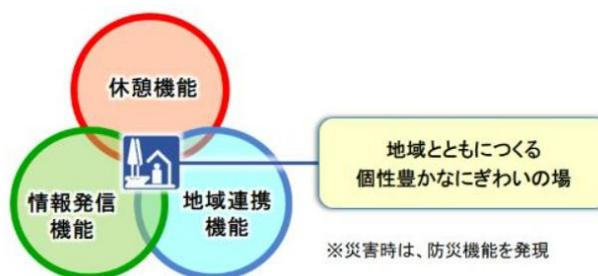
【役割3】 地域住民の日常生活を守る場所

- ・地元の人たちが日常的に利用できる暮らし支援の一翼を担う施設。
- ・防災・災害時の対応機能を備え、安全な暮らしに貢献する施設。

どれも「道の駅」に求められる機能と整合します。

「道の駅」とは

- 「道の駅」は、道路利用者への安全で快適な道路交通環境の形成と地域の振興に寄与することを目的としており、「休憩機能」「情報提供機能」「地域連携機能」の3つの機能を備えるものとされています。
- 地域の文化、歴史、名所、特産物などを活用し、個性豊かなサービスの提供により、活力ある地域づくりや「道の駅」を介した地域連携促進の効果も期待されています。
- 近年では、「地方創生・観光を加速する拠点」として、道路利用者だけでなく、消費者、地域、企業によって魅力的なコンテンツとなることや、災害時の防災拠点機能が期待されています。
- 都道府県の地域防災計画等で広域的な防災拠点に位置付けられている「道の駅」については、「防災道の駅」として防災拠点としての役割を果たすための重点的な支援が実施されています。



7. 新「道の駅 和良」の基本コンセプト、導入機能

基本コンセプト

和良川と新道路の交差点、新たな交流と暮らしを創る「道の駅」

- 和良地域まちづくりビジョンや市民ワークショップ、地域振興施設の役割を踏まえ、新「道の駅」（和良地域振興施設）を中心にして生まれる交流と暮らしをイメージし、新「道の駅和良」の基本コンセプトを設定しました。

想定される導入機能と規模

区分	機能・施設	規模想定 (m ²)	機能・施設の整備イメージ
公共	・ 駐車場（道路休憩施設 740 m ² ） ・ 駐車場（地域振興施設 1,500 m ² ） ・ トイレ（道路休憩施設 370 m ² ） ・ トイレ（地域振興施設 700 m ² ） ・ 道路情報提供施設 ・ 情報発信施設	3,470	・ 24 時間利用可能な駐車場、休憩スペース、トイレ、道路情報提供施設、観光・文化に関する情報発信施設、移住定住相談の情報提供施設
	・ EV 充電スタンド	—	・ 電気自動車の普及状況に併せて整備
	・ 防災（災害時対応施設）	350	・ 防災備蓄倉庫、マンホールトイレ、ヘリポート等
	・ 広場、多目的スペース	400	・ 和良鮎やオオサンショウウオ等の資源活用や地元住民等の利用スペース
	・ バス停、ロータリー	300	・ 地域巡回バスの発着点
	・ 通路、調整池等	7,900	
公共＋ 民間提案	・ 日常買物施設	280	・ 地域住民等が日用品等を購入できる施設
	・ チャレンジショップ	300	・ 新規開業を目指し、本開業の前に試験的に開業ができる施設
民間提案 (場所のみ提供)	・ 飲食施設 ・ 物産販売施設	600	・ 地元食材を使用したレストラン ・ 特産物や特産品等販売スペース
	・ ガソリンスタンド	200	・ 来訪者や地域住民の生活支援
	・ アウトドア広場	7,000	・ RV パーク等
	・ その他		
合計		20,800	

市民ワークショップから提案された導入機能案に基づく施設規模として、現段階では上記のとおり想定としていますが、実現にあたっては、実際の運営方針・事業内容を調整のうえ、詳細を検討していきます。

8. ゾーニング案

事業候補地

- 各種条件を総合的に判断し、整備候補地を設定しました。

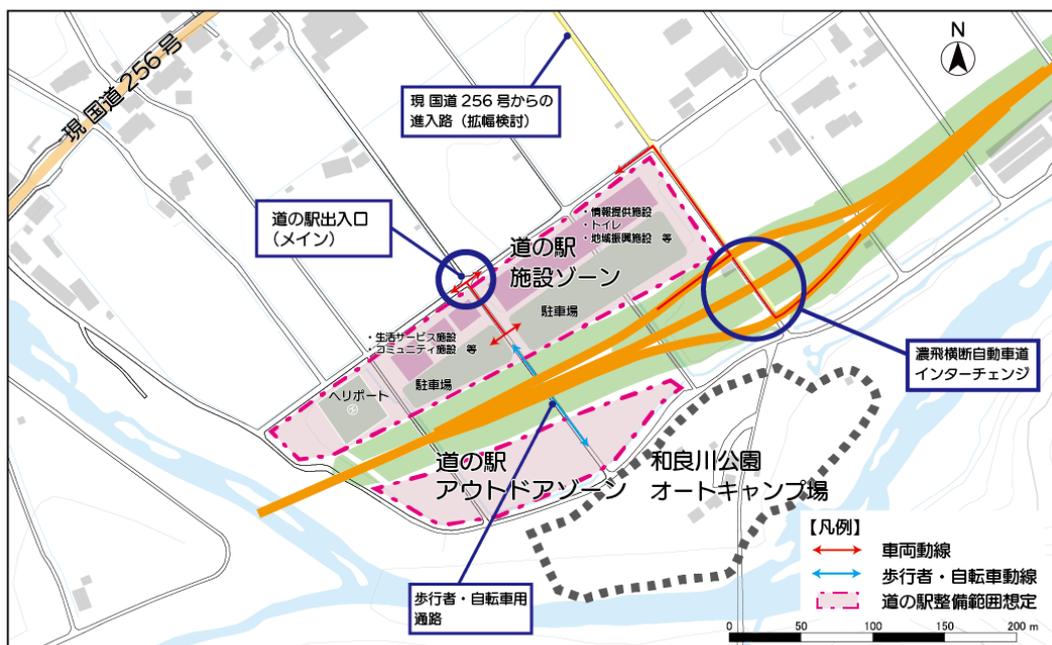


- 濃飛横断自動車道のICに隣接
- 和良川公園オートキャンプ場と近く、連携が可能
- 基盤整備等が比較的容易
- 集落からのアクセス、各観光資源との連携が可能
- 土砂災害警戒区域や冠水等ハザードを考慮
- 既存の施設と一体的に、「小さな拠点」の一翼を担う場所

配置計画

- 濃飛横断自動車道や既存道路からの進入路、動線と施設レイアウトを検討しました。

進入路・動線	施設レイアウト
<ul style="list-style-type: none"> ● インターチェンジからスムーズにアクセス可能な位置に「道の駅」出入口を設置 ● インターチェンジ交差点との距離を考慮し、アクセス道路との出入口は1か所 ● 現国道 256 号からの進入経路についても、同・アクセス道路を使用 ● 和良川および和良川公園オートキャンプ場へのアンダーパス（歩行者用）を整備 	<ul style="list-style-type: none"> ● 濃飛横断自動車道の北側は「道の駅 施設ゾーン」を設置 ● 建物は低層で、和良町の景観に合うデザインとしたい ● 「道の駅 施設ゾーン」内は、メインの出入口付近となる東側に情報提供施設、トイレ、地域振興施設を配置し、西側に住民の日常生活を支える機能を配置としたい ● 「道の駅 アウトドアゾーン」として、和良川公園オートキャンプ場と連携可能なアウトドア機能を整備したい



9. 今後の進め方

整備手法

- 「道の駅和良」の指定管理者である和良の郷総合開発株式会社に対して実施した事業者ヒアリングの結果では、導入整備手法として「公設民営方式」が最適であると判断されましたが、今後広く市内外の事業者等からの意見聴取等を行うなかで、PFI方式等「民設民営方式」も含めて、最適な整備手法について検討を行います。

※1) PFI手法

・PFI手法とは、「PFI (Private Finance Initiative : プライベート・ファイナンス・イニシアティブ)」とは、公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用して行う手法

今後の予定

- 新「道の駅」は、整備候補地を濃飛横断自動車道のインターチェンジに隣接した場所としていることから、道路事業の進捗状況を確認しながら進めていくこととなります。

< 今後のおもな取り組み内容 >

【計画・設計・整備等】

- ・基本計画の策定
- ・地盤調査、測量調査等
- ・基本設計、実施設計等
- ・農地転用、開発許可等各種協議、申請手続き等
- ・境界確定、用地の取得等

【運営等】

- ・実施方針策定、民間活力導入調査等
- ・管理運営事業主体選定等

10. 基本構想策定までの取組み

事業者ヒアリング（令和6年1月）

- 和良地域振興施設整備について運営者目線の意見の収集を目的に、「道の駅和良」の指定管理者である和良の郷総合開発株式会社へのヒアリングを実施しました。



市民ワークショップ（令和6年2月、8月、9月）

- 将来の和良町のまちづくり、和良地域振興施設整備をテーマに、和良町の住民を中心に市民ワークショップを開催しました。

市民アンケート（令和6年8月）

- 和良町の将来像や和良地域振興施設整備について、和良町全世帯を対象にアンケート調査を実施しました。

検討委員会（令和6年8月～10月）

- 学識経験者、地域住民代表や関係団体等で構成された、和良地域振興施設基本構想検討委員会を設置し、基本構想の策定に必要な項目に関する検討会議を計3回開催しました。